

2018年度 決算説明会

2019年5月8日

ブラザー工業株式会社

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

**18年度業績概要
19年度業績予想
株主還元**

代表取締役社長 佐々木 一郎

2018年度実績

✓ **売上、利益とも堅調に推移。営業利益は過去最高を更新。**

- ・ IJP/LBPとも、採算性の高いモデルへのシフトが順調に進み、収益性向上が続く
- ・ 米国で最高級刺しゅうミシンが大ヒットし、業績へ寄与
- ・ 産業機器は、米中貿易摩擦の影響もあり、中国向けが大幅に減少
- ・ ドミノ事業では、一部の開発プロジェクト見直しにより関連する開発資産の除却損を計上

2019年度通期見通し

✓ **事業セグメント利益は、主に為替のマイナス影響により減益を見込む**

- ・ P&Sは、新ビジネスモデルの拡大を進めつつ収益性の維持/拡大を目指す
- ・ 産業機器は、年度後半での業績回復を見込む
- ・ ドミノ事業はいくつかの新モデル投入を予定

2018年度通期 連結業績概要

brother
at your side

単位：億円

	17年度	18年度	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率	17年度 Q4	18年度 Q4	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	7,130	6,840	-290*	-4.1% (-2.1%)	1,788	1,622	-167*	-9.3% (-6.6%)
事業セグメント利益	772	720	-53	-6.8%	157	116	-41	-26.4%
事業セグメント利益率	10.8%	10.5%			8.8%	7.1%		
その他の収益・費用	-86	0	85		-1	-13	-12	
営業利益	687	719	33	4.7%	156	103	-53	-34.1%
営業利益率	9.6%	10.5%			8.7%	6.3%		
税引前利益	697	723	26	3.7%	159	102	-57	-35.8%
親会社当期利益	500	539	39	7.8%	112	74	-38	-33.9%
USD	110.81	110.69			108.85	110.46		
EUR	129.45	128.43			132.96	125.70		

*IFRS第15号の適用に伴う収益認識に関する会計処理の改訂による影響額を含む
 通期：-52億円
 Q4：-15億円

© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

4

2018年度の

売上収益は、前年比 290億円減の **6,840**億円、

事業セグメント利益は、53億円減の **720**億円、

営業利益は、昨年あった為替の評価損がなくなったことにより、

33億円増の **719**億円、

親会社当期利益は、39億円増の **539**億円 となりました。

営業利益**719**億円は過去最高益となります。

2018年度通期 事業セグメント別実績



単位：億円

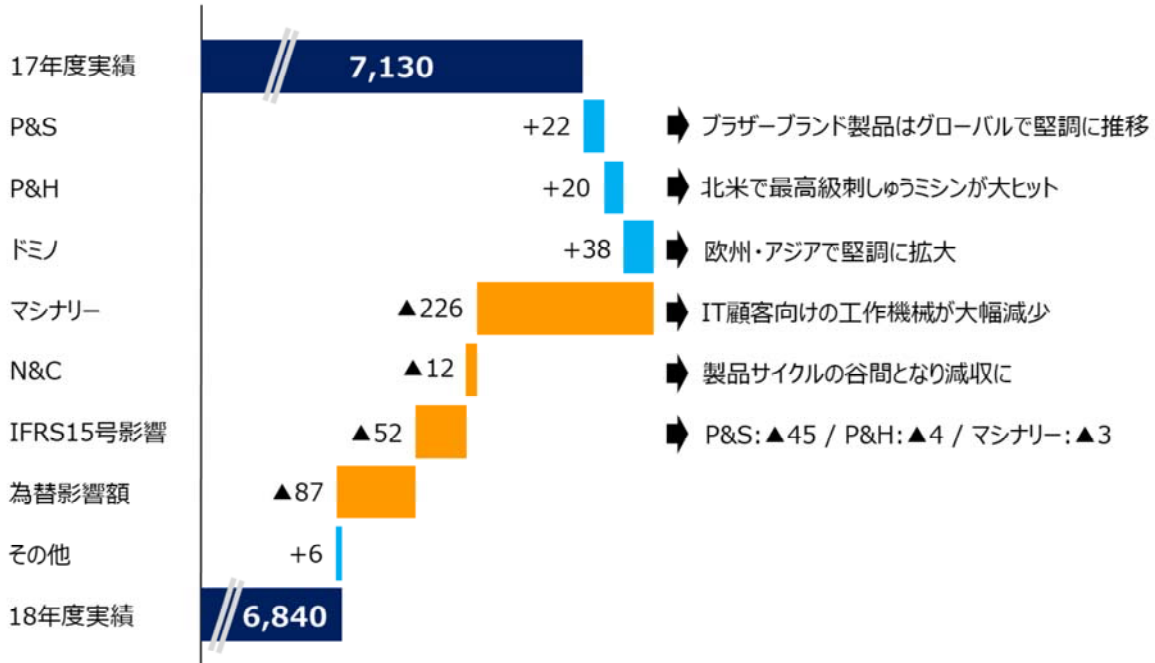
		17年度	18年度	増減	17Q4	18Q4	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	4,122	4,030	-91	1,023	957	-66
	事業セグメント利益	529	522	-7	104	88	-16
	営業利益	474	529	55	120	90	-30
パーソナル&ホーム	売上収益	445	454	10	101	100	-1
	事業セグメント利益	20	40	21	4	7	3
	営業利益	11	40	30	1	7	6
マシナリー	売上収益	1,273	1,041	-232	332	224	-109
	事業セグメント利益	144	98	-47	30	10	-20
	営業利益	141	99	-42	29	10	-19
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	491	479	-11	120	123	3
	事業セグメント利益	27	18	-9	5	5	0
	営業利益	13	16	2	-6	4	10
ドミノ	売上収益	684	712	28	183	187	3
	事業セグメント利益	46	39	-7	14	9	-5
	営業利益	40	29	-11	12	-5	-17
その他	売上収益	116	122	6	29	32	3
	事業セグメント利益	7	4	-3	0	-3	-3
	営業利益	9	8	-1	1	-1	-2
合計	売上収益	7,130	6,840	-290	1,788	1,622	-167
	事業セグメント利益	772	720	-53	157	116	-41
	営業利益	687	719	33	156	103	-53

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

マシナリー（産業機器）/為替影響/IFRS15号影響により減収となる

※増減額は為替影響を除いた実質ベース



売上収益の減収要因を説明します。

P&Sは、OEM向けが減少したものの、海外でのブラザーブランド製品は堅調に推移したことや、電子文具が堅調だったこともあり、実質**22**億円の増収。

P&Hは、約18,000ドルする最高級刺しゅうミシンが米国で大ヒットしたことにより、実質**20**億円の増収。

ドミノは、欧州・アジアを中心に拡大し、実質**38**億円の増収。

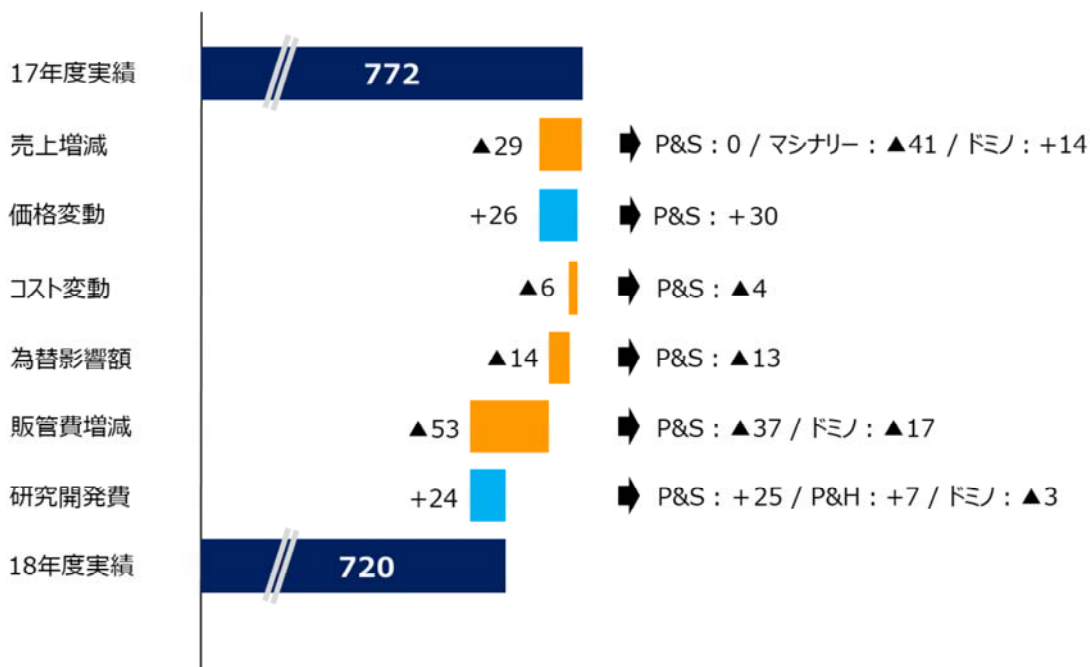
マシナリーは、主にIT顧客向けの産業機器の受注減の影響により実質**226**億円の減収。

N&Cは、通信カラオケ機器のモデルサイクルの谷間の年だったことや、機器取引におけるレンタル取引比率の増加の影響もあり、実質**12**億円の減収。

その他、IFRS15号適用による売上収益の認識基準の変更による影響で約**52**億、円高による為替影響額で**87**億の減収要因があり、

全体で**290**億円の減収となりました。

主にマシナリー事業が減収となったことにより減益となる



次に、事業セグメント利益の減益要因の分析です。

売上増減は、ドミノ事業の貢献はあったものの、産業機器が減収となった影響をカバーできず、**29億**の減益要因となりました。

価格変動は、P&S事業において、収益性改善策としてモノクロLBPの値上げを行ってきた効果が大きく、**26億**の増益要因となりました。

コスト変動は、**6億**の減益要因となりました。
主にP&S事業におけるコストアップが要因です。

為替影響額は、**14億円**の減益要因となりました。
通貨別には、ユーロが少し円高になったことで、約マイナス**6億円**の影響が出ました。
残りのマイナス**8億円**は、主要通貨以外の影響の総額とお考え下さい。

販管費増減は、**53億円**の減益要因となりました。
事業別には、P&Sとドミノで増加しました。

最後に研究開発費は、**24億円**の増益要因となりました。
主に、P&Sの開発費用抑制影響です。

これらの結果、全体では**53億円**の減益となりました。

2019年度通期 連結業績予想概要

brother
at your side

単位：億円

	18年度	19年度 予想	増減	増減率 () は為替影響 除く増減率
売上収益	6,840	6,900	60	0.9% (+1.9%)
事業セグメント利益	720	665	-55	-7.6%
事業セグメント利益率	10.5%	9.6%		
その他の収益・費用	0	-15	-15	
営業利益	719	650	-69	-9.6%
営業利益率	10.5%	9.4%		
税引前利益	723	650	-73	-10.1%
親会社の所有者に帰属する当期利益	539	485	-54	-10.0%
USD	110.69	110.00		
EUR	128.43	125.00		

© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

8

次に、19年度の業績予想です。

売上収益は、前年比 **60億円増の 6,900億円**、

事業セグメント利益は、**55億円減の 665億円**、

営業利益は、**69億円減の 650億円**、

親会社当期利益は、**54億円減の 485億円** を見込んでおります。

2019年度通期 事業セグメント別予想

brother
at your side

単位：億円

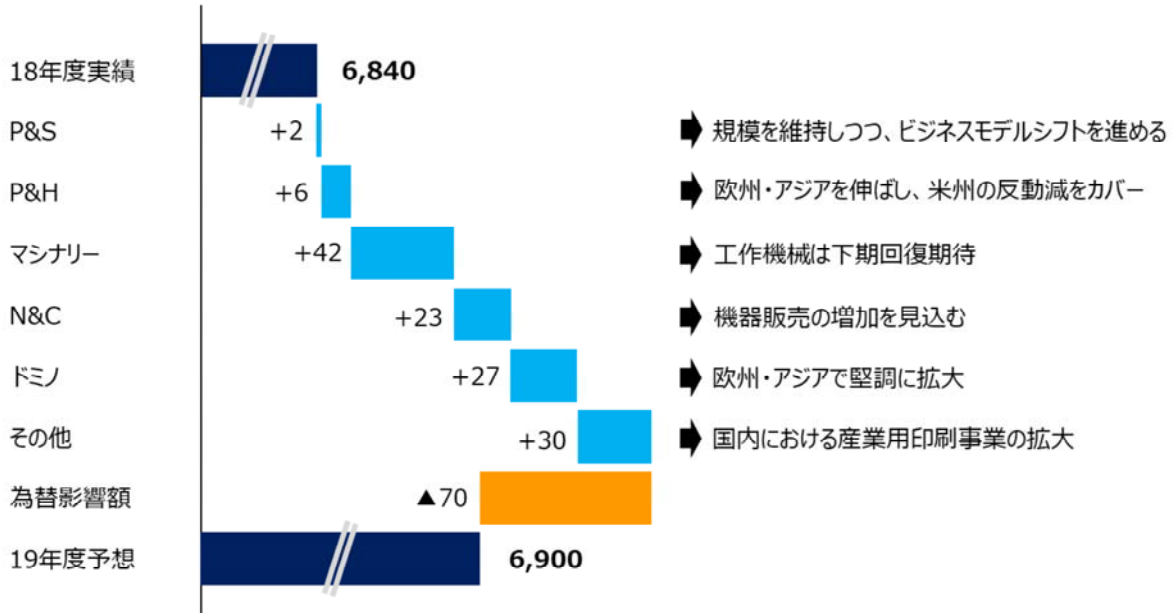
		FY18	FY19 予想	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	4,030	3,975	-56
	事業セグメント利益	522	481	-41
	営業利益	529	474	-55
パーソナル&ホーム	売上収益	454	452	-2
	事業セグメント利益	40	32	-8
	営業利益	40	32	-8
マシナリー	売上収益	1,041	1,079	38
	事業セグメント利益	98	88	-10
	営業利益	99	87	-12
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	479	502	23
	事業セグメント利益	18	22	4
	営業利益	16	20	4
ドミノ	売上収益	712	739	27
	事業セグメント利益	39	39	0
	営業利益	29	39	10
その他	売上収益	122	152	30
	事業セグメント利益	4	3	-1
	営業利益	8	-2	-10
合計	売上収益	6,840	6,900	60
	事業セグメント利益	720	665	-55
	営業利益	719	650	-69

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

各事業とも着実な増収を見込む

※増減額は為替影響を除いた実質ベース



2019年度の売上収益、**60**億円の増収要因を説明します。

P&Sは、実質フラットです。

中期戦略の方針どおり、売上規模を維持しつつ、ビジネスモデル変革を進めています。

P&Hはわずかですが増収を見込んでいます。18年度の業績が好調だった米国は反動減が想定されますが、欧州やアジアを伸ばすことでカバーしていきます。

マシナリーは、3事業すべてで増収を見込んでいます。

足元の産業機器の受注状況は依然として厳しいですが、下期からの回復期待を織り込んでいます。

N&Cは、通信カラオケ機器の本体販売の増加を見込んでいます。

ドミノは、前年同様、欧州・アジア中心に拡大を見込んでいます。

その他事業の増加は、国内における産業用印刷事業の拡大による影響です。

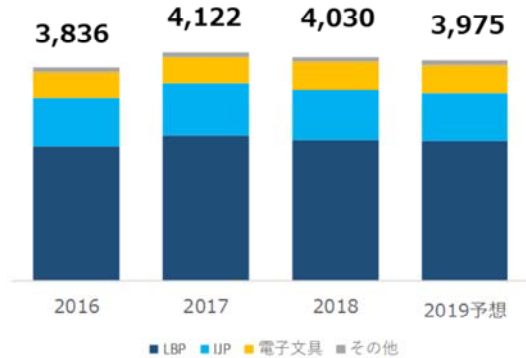
大半は、コーンズ社から譲受した国内におけるドミノビジネスが加わった影響です。

為替は**70**億円の減収要因となります。

これにより、全体で**60**億円の増収を見込んでいます。

厳しいプリンティングの事業環境の中で、全ての製品カテゴリで今期も安定的な売上を維持できる見通し

◆売上収益の推移（億円）



※伸び率は全て現地通貨ベース

◆18年度

売上収益：+0.5%増
 モノクロレーザー ▲2%(OEMを除いたベース：+1%)
 カラーレーザー +4%
 IJP 0%
 電子文具 +8%

・モノレーザーはOEMの減少の影響を除けば、グローバルで売上が拡大
 ・IJPは、新興国において大容量インクタンクモデルが大幅増加

◆19年度

売上収益：+0.1%増
 モノクロレーザー 0%
 カラーレーザー +4%
 IJP ▲2%
 電子文具 +1%

・モノクロレーザーの優位性の維持
 ・Eコマース向けのマーケティング強化
 ・インクタンクモデルや、トナーボックスモデルなどのTCO*モデルの拡販
 ・消耗品サブスクリプションサービスの拡大

◆現地通貨ベースの伸び率（対前年）

		FY17	FY18	FY19予想
LBP	本体	+13%	-2%	+2%
	消耗品	-2%	+1%	+1%
IJP	本体	+1%	-1%	+5%
	消耗品	+1%	0%	-7%



モノクロレーザー複合機



インクジェット複合機
(大容量タンクモデル)



ラベルライター

*TCO…Total Cost of Ownership / 製品の導入・使用・管理にかかる総所有コスト

ここからは、主な事業のアップデートです。

まずP&Sです。

18年度の売上は現地通貨ベースで+0.5%、ほぼフラットでした。
 19年度も同様にフラットを見込んでいます。

プリンティング市場は縮小傾向にありますが、
 ブラザーは収益力強化を前提に、強みのあるモノクロレーザーの強化や、
 伸びしろのある大容量インクモデルなど、ポイントを絞った事業展開を行っており、
 全ての製品カテゴリで売上を維持しております。

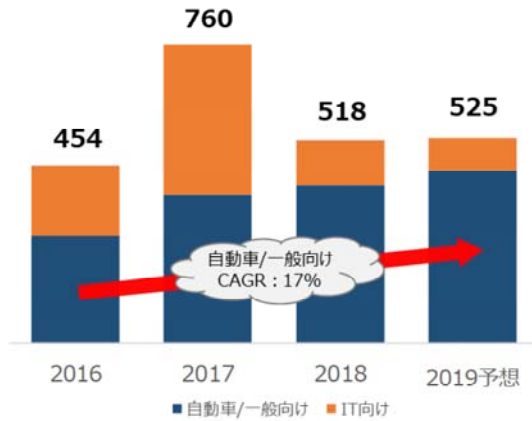
今期からは新中期戦略の方針に基づき、
 ・モノクロレーザーの優位性の維持
 ・Eコマース向けのマーケティング強化
 ・インクタンクモデルなどのTCOモデルの拡販
 ・消耗品サブスクリプションサービスの拡大

などに取り組み、事業の維持・強化を進めてまいります。

下期からの業績回復に期待し、成長に向けた活動を加速

※伸び率は全て現地通貨ベース

◆売上収益の推移（億円）



◆18年度

売上収益：▲31.9%減
自動車/一般向け +6%
IT向け ▲69%

- ・厳しい受注環境ながら、自動車/一般向けは6%の増収を達成
- ・機械剛性を高め、加工能力を向上させた「F600X1」を発売
- ・「R650X2」の40本ツール仕様発売

◆19年度

売上収益：+1.3%増
自動車/一般向け +9%
IT向け ▲26%

- ・SPEEDIO専用ローディングシステム発売
- ・ITは下期からの業績回復を期待
- ・刈谷ショールーム新設、西安工場拡張など、需要回復に備え、国内外の拠点強化を推進

◆地域別売上収益（億円）

	FY16	FY17	FY18	FY19予想
米州	27	33	33	40
欧州	21	30	30	32
アジア・中国	334	608	341	324
日本	72	89	114	129



SPEEDIO F600X1



ローディングシステム
BV7-870

© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

産業機器です。

18年度の売上は、IT向けの落ち込みもあり、前年から大きな減収となりました。しかし、厳しい環境のなか、自動車・一般向けは何とか増収を達成することができました。

19年度は、IT向けは減収となることを見込んでいますが、自動車関連向けを拡大することで、増収を目指していきます。

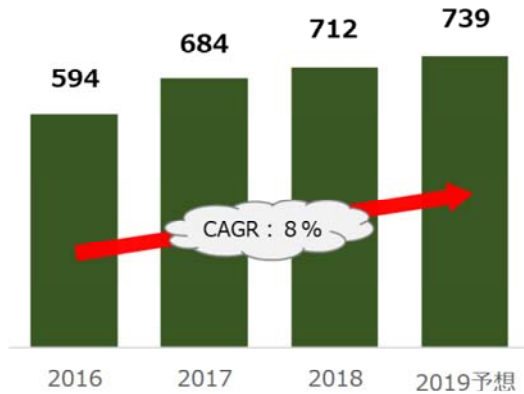
事業強化を目指し、18年度はスピーディオシリーズに、機械剛性を高め、加工能力を向上させた「F600X1」を投入したほか、派生モデルとして、40本の工具を搭載した「R650X2」を投入しました。

19年度は、スピーディオ専用のローディングシステムを発売するほか、事業強化のため、刈谷のショールームの拡大、西安工場の能力強化を進めています。

収益性を維持しながら、新たな成長に向けた強固な基盤構築を推進

※伸び率は全て現地通貨ベース

◆ドミノ事業の売上収益の推移（億円）



◆18年度

売上収益：+5.6%増

- ・欧米/アジアとも安定的な成長を達成
- ・DPは、アジア市場が大きく拡大
- ・プロジェクトの見直しにより、開発資産の除却損（約13億円）を計上

◆19年度

売上収益：+3.8%増

- ・アジャイル開発手法の導入など、新製品開発プログラムを改善
- ・新製品の市場投入
- ・国内での事業強化のため、4/1付けで「ブラザー・インダストリアル・プリンティングジャパン株式会社」が営業開始（「その他の事業」セグメントへ計上）

◆地域別売上収益（億円）

	FY16	FY17	FY18	FY19 予想
米州	150	159	159	174
欧州	283	337	358	359
アジア・中国	161	187	195	207



産業用インクジェットプリンター

ドミノ事業です。

18年度の売上は、欧州・アジアを中心に安定的な拡大が続きました。
19年度も同様に、安定的な拡大を見込んでいます。

ただ利益面では、先行投資で膨らんだ販管費が利益を圧迫していることに加え、
開発プロジェクトの見直しにより、13億円の除却損を計上するなど、足踏みが続いています。

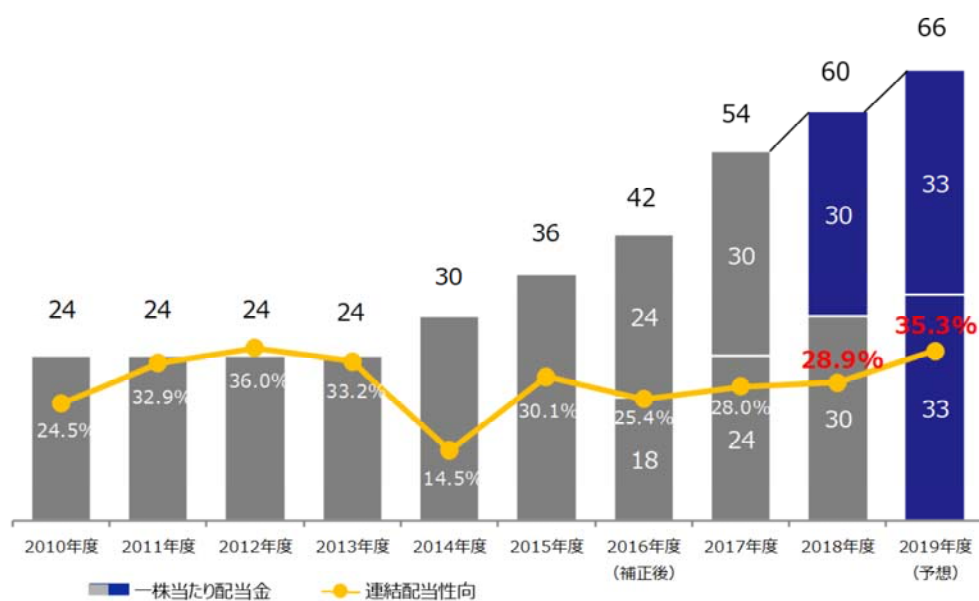
19年度も利益は我慢の年になりそうですが、3ヵ年計画中には利益拡大ステージに移れるよう、開
発や営業強化を進めてまいります。

開発面では、引き続きブラザーのサポートにより、開発プロセスの改善を進めていきます。

営業面では、コーンズ社から国内におけるドミノビジネスを取得しました。
「ブラザー・インダストリアル・プリンティング株式会社」として、4月からスタートしております。

なお、管理の都合上、セグメントはドミノではなく、「その他」にて開示して参ります。

19年度からの3年間は、連結配当性向35%を目安に還元を実施
 18年度の1株当たり配当金は年間60円、
 19年度は年間66円の配当を実施する方針



© 2019 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

14

株主還元です。

2018年度は従来の基準に基づいて、年間**60円**の配当、配当性向は**28.9%**となります。

2019年度からの3年間は、新中期戦略の発表時に公表した通り、
 連結配当性向の目安を**35%**に引き上げます。

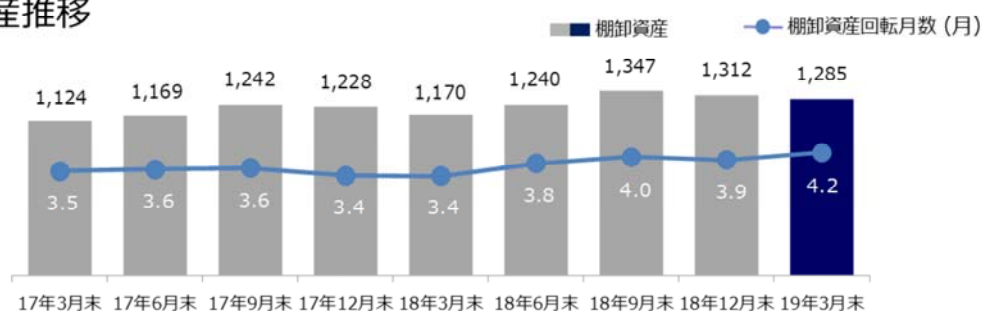
これにより、2019年度は、2018年度から**6円**の増配となる年間**66円**、
 配当性向**35.3%**の配当を予定しております。

決算補足説明
BS・CF・Capex・R&D

執行役員財務担当 伊藤 敏宏

	17年度末	18年度末	増減	
流動資産	3,666	3,849	183	ネット・キャッシュ 17年度末：+ 49億円 18年度末：+ 343億円
現預金	1,214	1,312	98	
棚卸資産	1,170	1,285	116	
非流動資産	3,416	3,237	-180	
負債合計	2,958	2,670	-288	株主資本比率 17年度末：55.8% 18年度末：59.9%
有利子負債	1,164	968	-197	
株主資本	3,955	4,248	292	
総資産	7,083	7,086	3	

棚卸資産推移 (億円)



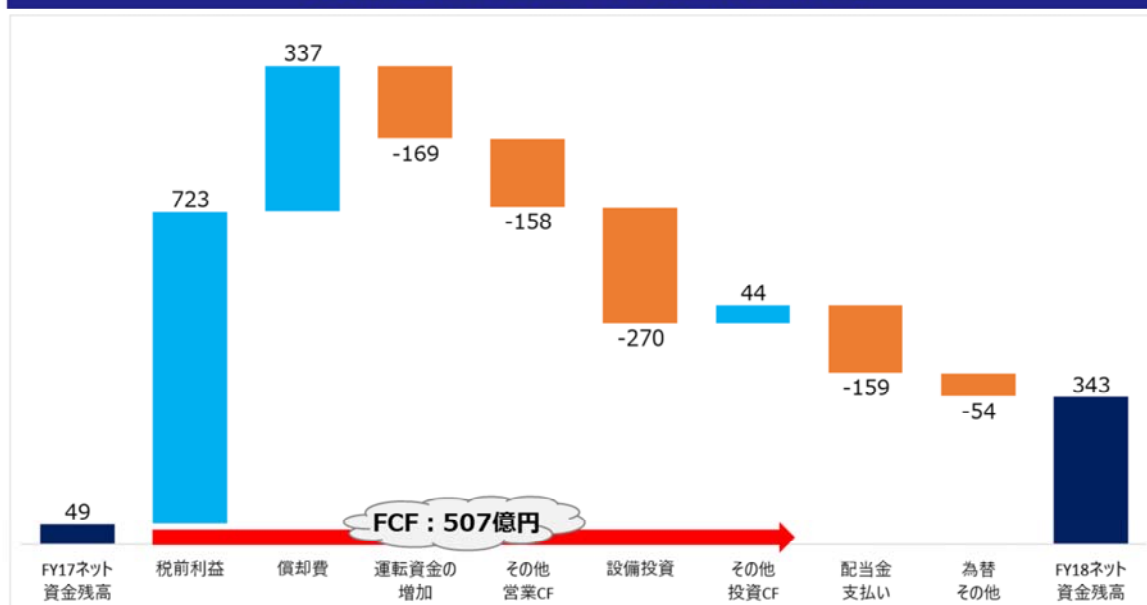
財務の状況です。

総資産は前年度末比で3億円の増加と、基本的には大きな変化はありません。

堅調な業績を受け、ネットキャッシュが294億円改善し、343億円、株主資本比率は59.9%となり、財務健全性はより強固な状態となっております。

期末の棚卸資産は1,285億円となり、前年度末から116億円増加となりました。18年度は工場における生産活動を平準化したことにより、P&S事業を中心に全体的に在庫水準が高くなっています。

18年度は507億円のフリーキャッシュフローを創出



・ネット資金残高 現金及び現金同等物-有利子負債残高
 ・償却費 減価償却費及び償却費
 ・運転資金の増減 営業債権及びその他の債権の増減額 + 棚卸資産の増減額 + 営業債務及びその他の債務の増減額

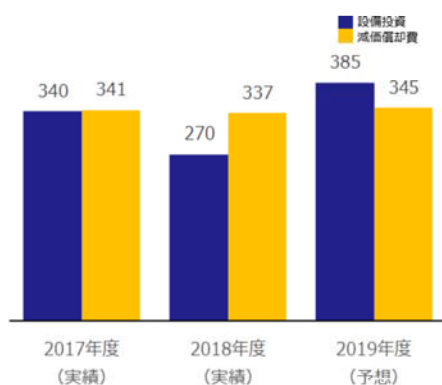
キャッシュフローを、ネットキャッシュの増減という視点で分析したグラフです。
 ネットキャッシュは49億円から343億円へ、294億円増加しました。

FCFは507億円と高い水準となりました。
 業績が堅調だったことに加え、設備投資が270億円と通常の年度に比べると少なかったことが要因です。

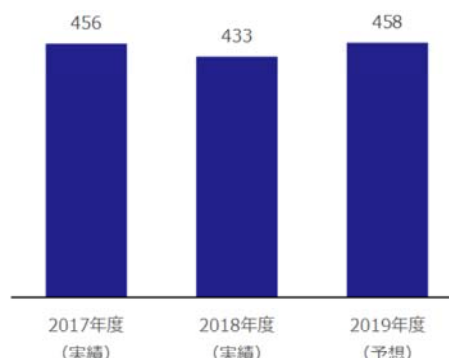
19年度は設備投資で前年比115億円の増加を見込むほか、
 税前利益も70億程度の減益を見込んでいることもあり、FCFは18年度より150億円程度
 水準が下がる見込みです。

新中期戦略では、3年間累計でのFCFを1,000～1,200億と想定しており、
 今期はそれに沿った推移となる見通しです。

設備投資・減価償却費（億円）



研究開発費（億円）



事業別設備投資内訳

	17年度	18年度	19年度
P&S	152	95	153
P&H	9	9	12
マシナリー	36	40	44
N&C	65	52	81
ドミノ	46	31	35
その他	33	44	60
計	340	270	385

事業別研究開発費内訳

	17年度	18年度	19年度
P&S	315	290	294
P&H	29	22	24
マシナリー	48	50	60
N&C	9	5	12
ドミノ	35	38	39
その他	21	27	29
計	456	433	458

設備投資です。

18年度はP&Sが製品投入サイクルの谷間だったことで、全体で前年度に比べ70億円少ない270億円という水準でした。

19年度はP&Sも通常の設定投資水準に戻るほか、N&Cも新モデルの投入で貸与資産や店舗設備の投資が増加する見込みです。これにより、全体では18年度に比べ、115億円の増加となる385億円を見込んでいます。

研究開発費です。

こちらも18年度はP&Sの水準が低かったことで、前年度に比べ24億円少ない433億円という水準でした。

19年度もP&Sはそれほど増加しませんが、事業拡大方針に合わせ、マシナリーで10億円増加する予定です。N&Cも新製品開発に伴う一時的な増加を見込んでいます。これにより、全体では18年度に比べ25億円の増加となる458億円を見込んでいます。

説明は以上です。

セグメント参考資料

プリンティング&ソリューションズ事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益



単位：億円

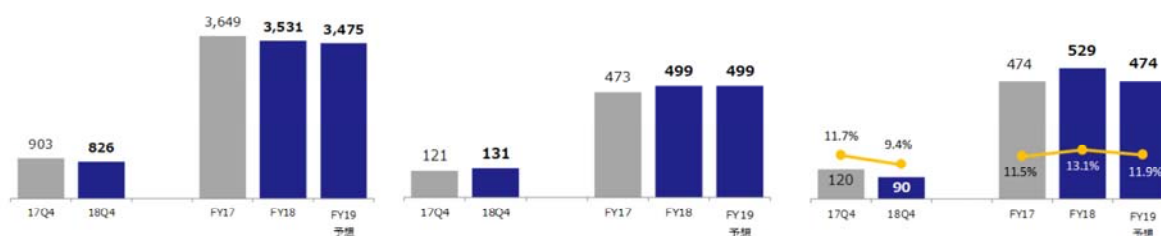
	17Q4	18Q4	増減率	為替影響 除く増減率	FY17	FY18	増減率	為替影響 除く増減率	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	1,023	957	-6.5%	-2.5%	4,122	4,030	-2.2%	0.5%	3,975	-1.4%	0.1%
通信・プリンティング機器	903	826	-8.5%	-4.4%	3,649	3,531	-3.2%	-0.4%	3,475	-1.6%	-0.1%
米州	328	316	-3.9%	-2.4%	1,335	1,300	-2.6%	0.0%	1,256	-3.4%	-2.3%
欧州	319	281	-12.2%	-4.6%	1,192	1,162	-2.5%	1.0%	1,146	-1.4%	0.8%
アジア他	140	130	-7.1%	-2.0%	616	620	0.6%	4.2%	652	5.1%	6.9%
日本*	115	99	-13.4%	-12.7%	505	448	-11.3%	-10.8%	421	-5.9%	-5.9%
電子文具	121	131	8.9%	12.4%	473	499	5.6%	8.1%	499	0.0%	1.4%
米州	52	55	6.1%	6.5%	212	225	6.2%	8.0%	226	0.3%	1.4%
欧州	40	39	-2.1%	5.5%	146	145	-0.9%	2.9%	147	1.2%	3.3%
アジア他	17	17	0.9%	5.8%	76	79	4.2%	7.2%	82	4.4%	6.1%
日本	12	20	71.4%	72.1%	39	50	29.4%	30.0%	45	-11.3%	-11.3%
事業セグメント利益	104	88	-15.1%	-	529	522	-1.3%	-	481	-7.8%	-
営業利益	120	90	-25.4%	-	474	529	11.7%	-	474	-10.4%	-

*日本の売上収益の減少は、OEMの減少によるものです。

<売上収益> 通信・プリンティング機器

<売上収益> 電子文具

<営業利益>



プリンティング&ソリューションズ事業 主要製品別売上伸び率・構成比

brother
at your side

	17Q1	17Q2	17Q3	17Q4	18Q1	18Q2	18Q3	18Q4	17通期	18通期	19通期
LBP											
売上伸び率（円ベース/前年比）											
本体	13%	24%	23%	11%	1%	-3%	-5%	-17%	17%	-6%	0%
消耗品	-1%	2%	9%	1%	1%	1%	-1%	-4%	3%	-1%	-1%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）											
本体	12%	15%	15%	10%	2%	0%	-1%	-12%	13%	-2%	2%
消耗品	-2%	-8%	2%	-1%	1%	3%	2%	-1%	-2%	1%	1%
IJP											
売上伸び率（円ベース/前年比）											
本体	3%	15%	3%	-1%	-6%	-6%	2%	-6%	4%	-4%	3%
消耗品	4%	3%	13%	3%	1%	-1%	-3%	-5%	6%	-2%	-8%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）											
本体	3%	6%	-3%	-2%	-3%	-2%	6%	-1%	1%	-1%	5%
消耗品	4%	-5%	6%	1%	1%	1%	0%	-2%	1%	0%	-7%
消耗品比率	57%	57%	56%	58%	58%	58%	57%	61%	57%	58%	58%
販売台数伸び率（実績のみ/前年比）											
LBP	13%	9%	10%	3%	-1%	-8%	-7%	-16%	9%	-8%	-
IJP	-7%	-5%	-9%	3%	-1%	-2%	-1%	-4%	-5%	-2%	-

※18Q1～Q3の現地通貨ベースの伸び率を修正しております。

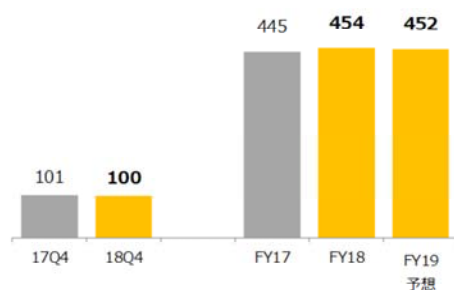
パーソナル&ホーム事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother
at your side

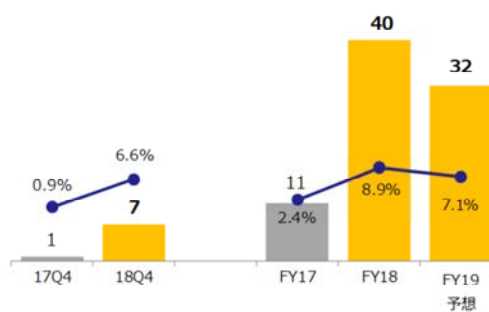
単位：億円

	17Q4	18Q4	増減率	為替影響 除く増減率	FY17	FY18	増減率	為替影響 除く増減率	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	101	100	-1.3%	1.0%	445	454	2.2%	4.5%	452	-0.5%	1.3%
米州	50	52	4.8%	5.0%	240	258	7.4%	10.0%	250	-3.2%	-1.7%
欧州	26	24	-6.7%	-0.3%	113	111	-1.4%	0.3%	113	1.9%	4.8%
アジア他	13	11	-18.3%	-14.6%	55	50	-9.9%	-6.9%	54	8.1%	10.1%
日本	12	12	3.7%	4.3%	36	36	-2.2%	-1.8%	35	-0.5%	-0.5%
事業セグメント利益	4	7	64.5%	-	20	40	103.8%	-	32	-20.7%	-
営業利益	1	7	643.6%	-	11	40	283.1%	-	32	-20.6%	-

<売上収益>



<営業利益>



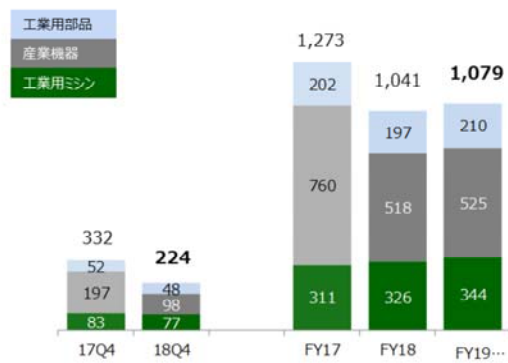
マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother
at your side

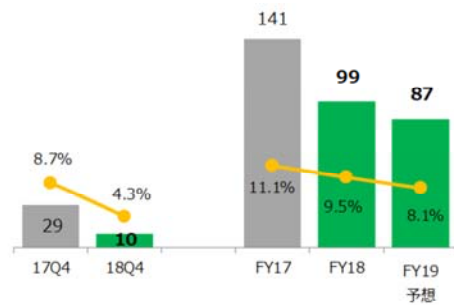
単位：億円

	17Q4	18Q4	増減率	為替影響 除く増減率	FY17	FY18	増減率	為替影響 除く増減率	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	332	224	-32.7%	-31.8%	1,273	1,041	-18.2%	-17.8%	1,079	3.6%	4.0%
工業用マシン	83	77	-7.4%	-5.7%	311	326	4.9%	5.8%	344	5.4%	6.6%
産業機器	197	98	-50.1%	-49.7%	760	518	-31.9%	-31.9%	525	1.4%	1.3%
工業用部品	52	48	-7.3%	-6.0%	202	197	-2.2%	-0.8%	210	6.4%	6.7%
事業セグメント利益	30	10	-67.5%	-	144	98	-32.4%	-	88	-9.8%	-
営業利益	29	10	-67.0%	-	141	99	-29.9%	-	87	-12.2%	-

<売上収益>



<営業利益>



マシナリー事業 地域別売上収益

brother
at your side

単位：億円

	17Q4	18Q4	増減率	為替影響 除く増減率	FY17	FY18	増減率	為替影響 除く増減率	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	332	224	-32.7%	-31.8%	1,273	1,041	-18.2%	-17.8%	1,079	3.6%	4.0%
工業用マシン	83	77	-7.4%	-5.7%	311	326	4.9%	5.8%	344	5.4%	6.6%
米州	15	13	-15.6%	-16.5%	64	65	2.6%	3.3%	71	9.3%	10.6%
欧州	17	18	1.1%	7.1%	63	71	14.1%	14.9%	75	5.0%	7.9%
アジア他	48	44	-8.3%	-7.3%	178	181	2.0%	2.9%	190	4.6%	5.1%
日本	2	2	3.2%	4.5%	7	8	20.1%	20.5%	8	-3.0%	-3.0%
産業機器	197	98	-50.1%	-49.7%	760	518	-31.9%	-31.9%	525	1.4%	1.3%
米州	10	5	-47.3%	-	33	33	1.3%	-	40	21.7%	-
欧州	10	6	-42.4%	-	30	30	-0.7%	-	32	5.9%	-
アジア他	152	61	-59.6%	-	608	341	-43.9%	-	324	-4.9%	-
日本	25	26	3.3%	-	89	114	27.5%	-	129	13.4%	-
工業用部品	52	48	-7.3%	-6.0%	202	197	-2.2%	-0.8%	210	6.4%	6.9%
米州	6	6	1.9%	0.2%	25	25	-0.3%	-0.2%	25	0.9%	1.7%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	5	5	-2.4%	0.9%	20	22	9.1%	9.9%	24	9.4%	11.4%
日本	41	37	-9.3%	-7.8%	157	150	-4.0%	-2.2%	161	7.1%	7.1%

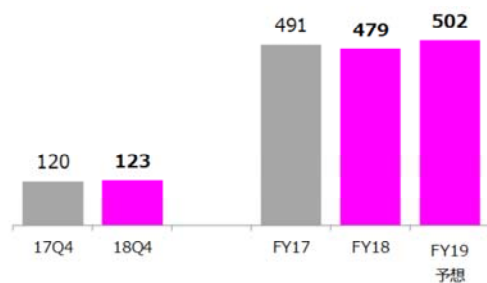
ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益



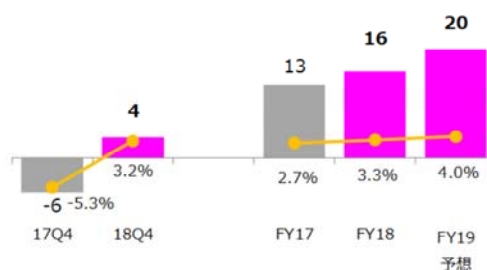
単位：億円

	17Q4	18Q4	増減率	FY17	FY18	増減率	FY19 予想	対前年 増減率
売上収益	120	123	2.5%	491	479	-2.3%	502	4.7%
事業セグメント利益	5	5	-3.4%	27	18	-33.2%	22	23.7%
営業利益	-6	4	-	13	16	18.6%	20	25.5%

<売上収益>



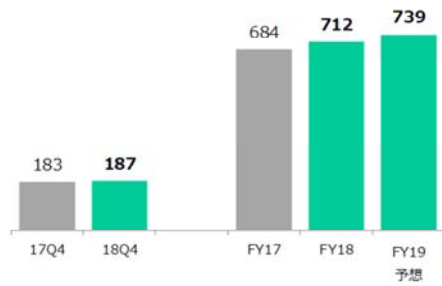
<営業利益>



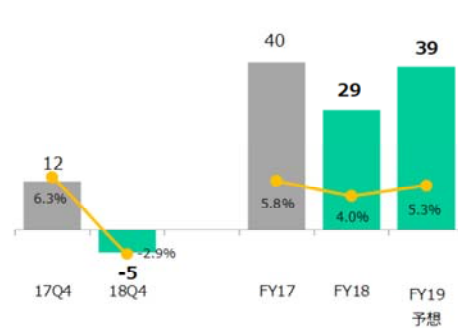
単位：億円

	17Q4	18Q4	増減率	為替影響 除く増減率	FY17	FY18	増減率	為替影響 除く増減率	FY19 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	183	187	1.8%	3.3%	684	712	4.2%	5.6%	739	3.7%	3.8%
米州	38	41	8.6%	13.9%	159	159	0.2%	1.7%	174	9.2%	10.6%
欧州	97	95	-2.4%	2.4%	337	358	6.2%	8.0%	359	0.2%	1.6%
アジア他	48	50	5.1%	10.2%	187	195	3.9%	5.5%	207	6.3%	7.8%
事業セグメント利益	14	9	-38.0%	-	46	39	-14.9%	-	39	-1.2%	-
営業利益	12	-5	-	-	40	29	-28.4%	-	39	36.1%	-

<売上収益>



<営業利益>



brother
at your side